

令和4年度 事業報告

「人生百年時代」を迎え労働力人口の減少、日本経済の活力低下、若年世代に対する社会保障負担の増加など、様々な問題点が指摘されています。また、国が70歳までの雇用促進政策を進めている状況で、シルバー人材センター会員の高齢化が顕著になってきています。

当シルバー人材センターは、今年度新入会員の平均年齢が71.1歳、会員の平均年齢も74.8歳となりました。80歳前後で入会される方もめずらしいことではなくなりつつあり、そうした80歳以上の会員に対する就業をどのような分野で確保していくか、今後の大きな課題となってきました。さらに、コロナ禍において会員の入退会の動向に見通しがつかない状況から、今年度は100人を超える入会状況もあり会員数の減少に一定の歯止めがかかりつつあるのではないかと判断しています。

今年度事業実績としての請負契約金額は179,498千円で、前年度180,230千円と比較して732千円(0.5%)の減少となり、ここ数年の減少幅とは違い、小さくなっています。また、派遣事業の契約金額は112,778千円で、前年度93,350千円と比較して19,428千円(20.8%)の増となり、派遣事業を開始して初めての1億円台の契約金額となりました。このことは、派遣事業がシルバー人材センター事業での一定の役割を地域の中で展開してきた結果でもあると認識しています。

今後、需要が高まるであろう高齢者向けの福祉・家事援助サービスに対応した事業などを、積極的に展開するため、「女性委員会」を中心に女性向けの各種講習会、教室を定期的に開催し、女性会員の確保に努めた結果、19名の増加となりました。

令和5年10月からの仕入税額控除「インボイス制度」への対応や物価高騰による会員の生活への影響緩和のため、配分金基準単価の見直しや事務費率の変更を検討し、令和5年度からの対応を準備しました。さらに、昨年来検討してきました「第4次中期計画」の策定により、中期的な視点に基づく目標を計画的かつ着実に達成するため、会員への一層の情報共有を進めてまいります。

【年度別事業実績】

年度	年度末 会員数	4月～3月末の入退会状況		契約実績 (単位：千円)		
		入 会	退 会	請 負	派 遣	計 *
4	630	102	77	179,498	112,778	292,277
3	605	59	88	180,230	93,350	273,580
2	634	73	69	189,624	89,430	279,055
1	630	86	67	197,139	87,081	284,220
30	611	64	45	200,603	62,659	263,262

(※契約金額は、数値を千円単位で切捨て処理しています。合計に差異が生じています。)

【令和4年度事業実績（詳細）】

1 就業機会の確保と組織的提供事業及び会員数の増加（請負、委任）

- ・新たな就労先を開拓するため、公共職業安定所や商工会、行政機関などとの連携を密にして情報収集を行った
- ・会員への迅速で均等な就業機会を提供するため、会員への携帯ショートメッセージ送信サービスを利用し、業務の効率化と経費節減を行った
- ・就業機会の拡充に伴い不足するシルバー会員の確保を図るため、「新規会員募集キャンペーン」を実施した
- ・市からの委託事業として「ボランティアポイント制度」・「訪問介護支援事業」を充実して福祉介護支援事業の拡大を図った。会員の就業によらない高齢者の能力を生かした活力ある地域貢献活動の充実とともに、さらに、ゴールド会員制度を併用し、会員の高齢化による退会の抑制につなげた

2 指定管理事業

- ・令和2年度から令和6年度までの5カ年間、いきいきライフの館、鳳来高齢者生きがいセンターの指定管理者として、施設利用者に「使い勝手の良い」、「利用しやすい」施設管理を行った
- ・市役所による施設の経年劣化に伴う老朽化対策（空調機交換・非常用照明器具の取替、電気設備の更新工事）を実施していただき、施設機能の利便性の向上を図った

3 有料職業紹介事業（雇用）

- ・人手不足になっている市内事業者と高齢者・シルバー会員向けに、有料職業紹介事業への取り組みをPRし、公共職業安定所等の協力を得ましたが、実績にはつながらなかった

4 労働者派遣事業（派遣）

- ・公共職業安定所や商工会、行政機関などと連携して人手不足となっている事業所の求人情報を収集し、速やかにシルバー派遣会員を確保し、シルバー派遣事業の拡大が図れた
- ・シルバー派遣事業を推進するため、担当職員の養成、確保を図り、連絡会議等にも積極的に参加した

5 知識及び技能の付与を目的とした講習会等の実施事業

- ・草刈り機やチェーンソーの正しい使用方法を学ぶ講習会を、安全対策の観点からも複数回実施し、会員の安全に対する意識啓発を図った
- ・「介護支援」、「そうじ」など社会生活にも密着した講習会や、技能講習としての「木工スキルアップ講座」や剪定講習会を県機関との連携のもとに行った
- ・地域農業を後押しする「しんしろ援農隊」の活動を支援するため、市役所、農協の協力を得て、農作物の収穫等の講習を実施した

6 調査研究事業

- ・農業同好会や独自事業の就業会員の販売機会を確保・支援するための行事として「シルバーまあけっと」を開催した

- ・シルバー未就業会員を対象に「会員アンケート調査」を実施し、シルバー会員が求める就業先を提供することで、シルバー会員の満足度を高め、退会者の削減につなげた
- ・発注者に対する「就業後の調査」でのご意見を、シルバー会員への指導、事務局の対応の改善に活かした

7 相談事業

- ・シルバー人材センター新入会員への入会研修会を毎月開催し、研修会での個人面談で就業希望、要望を聞き取り、きめ細かな就業相談を実施した
- ・市民及び企業からの受注依頼などの問い合わせに、シルバー会員（高齢者）に安全及び適正な就業か判断し、民間事業者を紹介するなどの相談に応じた
- ・新たな行政サービス、行政需要（生活弱者への支援、農業支援、ふるさと納税、ボランティアポイント制度など）の受け皿として相談にあたった

8 安全・適正就業推進事業

- ・安全・適正就業講習会等の開催により安全・適正就業の推進を図った
- ・安全委員会を定期的に開催するとともに、安全委員会による安全適正パトロール巡廻指導を行い、より細かな安全対策活動の推進に努めた
- ・安全委員会による会員への「安全就業スローガン」を募集し、安全意識の普及啓発に努めた
- ・安全委員会で「安全適正就業対策基本計画」と令和5年度の「事業計画」を検討し、愛知県シルバー人材センター連合会の方針にも配慮した「安全目標」等を設定した

9 センターの活動等について周知を図る事業

- ・ホームページを活用して、シルバー人材センターの活動内容やシルバー会員の入会促進に向けた情報発信を行った
- ・新城市広報紙「ほのか」への掲載やシルバー機関紙「頑張らまいかん」、募集チラシの新聞折込み・行政区回覧を実施して、シルバー人材センターの入会促進を行った
- ・「ボランティア活動」の11月開催や市内商業施設でのイベントを通じて、普及啓発を行った
- ・女性委員会が、シルバー人材センターに興味を持っていただけるような環境づくりのために、女性に限定した教室等を実施し、会員確保のため広く市民に周知を行った
- ・広報部会を定期的に開催し、情報発信方法などを検討した

10 その他センターの目的を達成するために必要な事業

- ・新城市から委託事業、介護支援ボランティア事業「しんしろ支え愛ボランティアポイント事業」のための研修会や登録会員への講習会を、登録会員の増加とその会員への知識・技能習得を目的として実施した

11 シルバー人材センターの財政基盤の安定を図る

- ・国の政策、方針に沿った事業展開による国庫補助金の確保に努めた
- ・インボイス制度の導入や、諸経費の高騰などの社会環境の変動に対応するため、理事会、専門部会での検討を図り、新城市へ補助金の現状維持を求めた
- ・時代に即応した事業展開を推進し、将来を見据えた無駄をなくした効率的な財政運営

に努めた

12 公益社団法人の適正な運営

- ・公益社団法人としての適正な事業運営を行った
- ・シルバー人材センターの設立目的に沿った公益事業を推進し、会員・役員と事務局が一体となった事業運営を行った